

事務事業名	コード	19000	食生活改善推進事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	健康管理課	担当班	予防班
					一般	4	1	2				
基本施策	5	保健の充実		根拠法令	健康増進法							<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業
施策の展開	11	健康づくりの推進		戦略事業	47 食生活改善推進事業							<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画
施策の展開				戦略事業								<input checked="" type="checkbox"/> 新市建設計画
												<input type="checkbox"/> 定住自立圏構想
												<input type="checkbox"/> 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	・保健推進員が塩分濃度測定器を用いて家庭で作られた味噌汁の塩分濃度を測定し、減塩に関するパンフレットの配布を行って啓発を行う。 ・保健推進員が学校や地区の集会などの場を利用して、健康メニューの試食提供や紙芝居を行って、健康づくりの知識を広く市民に伝える。 ・小さいころから自らの食について、考える習慣や知識を習得するために食育事業を行う。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
昭和58年に婦人の健康づくり推進事業に食生活改善推進員の教育事業が加わり、さらに平成9年地域保健法により義務化されたため。旧市町での開始時期は不明。	・平成15年に栄養改善法が廃止され、健康増進法に移行された。 ・平成17年に食育基本法が施行された。 ・対象者は、生活活動量の減少や食生活の欧米化が進み、生活習慣病とその予備群が大幅に増加している。 ・ほとんどの推進員が1期で交代するため、知識や経験が不足しがちである。	・地区伝達活動を実施した学校や地区高齢者グループから好評を得ている。 ・次年度もまた開催してほしい等の要望がある。 ・地区伝達活動実施後、別の場所ですべて参加者から推進員に声をかけてくれる。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算) 単位:千円		② 特定財源の内訳(29年度の決算) 単位:千円								
1. 消耗品費	235	1. 国庫支出金	0	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)		
2. 手数料	51	2. 都道府県支出金	0	269	191	193	235	238		
3. 通信運搬費	11	3. 地方債	0	52	50	51	51	64		
4. 通送料及び駐車料	6	4. その他	0	14	14	14	11	16		
5. その他	10			1	18	6	6	9		
				8	8	86	10	10		
				事業費計(A)	千円	344	281	350	313	337
				1. 国庫支出金	千円					
				2. 都道府県支出金	千円					
				3. 地方債	千円					
				4. その他	千円					
				5. 一般財源	千円	344	281	350	313	337

前年度増減理由	H28研修会時、市のバスを借りることができず、民間バスを借用したため
---------	------------------------------------

従事職員数 常時 1人 最大 2人 × 1日 = 延べ 2人

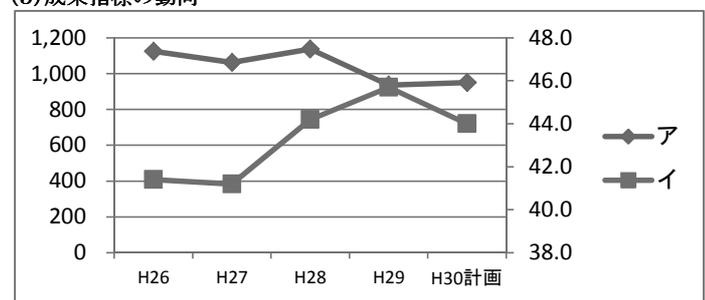
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動) ・地域の集いの場(地域ふれあい交流会)で、具だくさんみそ汁やデザートを提供し、交流を図る。参加した高齢者にも好評であった。・ご近所やお知り合いの方にみそ汁を提供してもらい、塩分濃度測定をした後、結果とパンフレットをお渡しし、減塩の必要性について説明をする。・一般の方を対象に、バランスの良い食事についての講話、太巻き寿司の調理実習を行う。・男性の成人を対象に、生活習慣病予防の講話と調理実習を行う。・高校2年生を対象に、朝食の大切さ、食事バランスの必要性についての講話、調理実習を行う。		ア 地区伝達講習会等の実施回数	回	19	18	21	20	21
			イ 食育学習の実施回数	回	11	8	7	4	4
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象意図 市民 市民が望ましい食生活を実践できるようになる。		ア 地区伝達講習会等への参加者数	人	1,125	1,062	1,138	936	950
	対象意図		イ 塩分が原因となる疾病がある人の割合(収縮期血圧基準値以上の者)	%	41.4	41.2	44.2	45.7	44.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果			
施策貢献度	大きい	成果向上余地 かなりある	評価優先度	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	普通	ある程度ある		①		
	小さい	ほとんどない		②	③	④⑤
			⑥	(4)		
			⑦⑧			
			⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イのタイプ 数値増=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下 数値減=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下
【コメント】 (低下の場合、その理由)	ア・・・小学校で栽培している落花生を使用した料理実習が食物アレルギーの関係でできなくなってしまい、食育事業が減少したため。イ・・・減塩啓発活動は事業や検診の事後指導等で行っているものの、様々な要因で、増えてしまった。
③ 今年度取組事項 (30年度に取り組む主な事項について記載)	時期 8月以降 内容 高校生への食育も1クラスから4クラスに増やし、やさしい在宅介護教室も一般の方を対象に実施する。また、高齢者を対象にシニアカフェを実施する。
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他()
	平成30年度から 対象者の幅をひろげ、高校生や男性、高齢者の介護予防食等について、年代や性別に応じた地区伝達、食育活動を行う。